

平成5年度魚類養殖生産者会議の開催

新里 勝也

平生3年度に最初の生産者会議を持ち、2年ぶりの開催となった。

今回も生産者相互の交流という主旨のもとに、沖縄県漁業協同組合連合会との共催で開催した。

開催にあたっては、生産者及び関係者の魚類養殖に対する最近の問題及び課題をみんなで論議するための題材として、いくつかのテーマを設定し開催した。以下にその内容をまとめる。

1. 県内外の概況について

(水産業改良普及所 新里勝也普及員)

- ・平成5年9月に60件の区画及び特定区画漁業権が設定され、本格的に魚類養殖がスタートした。各地区における養殖技術は概ね平準化されてきているが、流通面においてはマダイの不振が続き、漁家経営を圧迫しているようである。
- ・平成6年の網入れ予定尾数は例年とほぼ同程度予定され、当面、生産量で150トンのペースで推移していくものと思われる。また新魚種としてカンパチやハタ類の導入の意欲も強いようだ。
- ・全国的にはマダイの不振が続き、転廃業する漁家も多い。需要の増大による早めの価格回復が期待されている。
- ・今後は先進県の例を参考にしながら、経営規模、計画生産・販売、魚病対策等の課題に取り組んでいく必要がある。

2. 養殖業関連施策について

(水産振興課 島田和彦主任)

- ・施設整備、調査・実験事業、制度資金等の施策をうまく活用してもらいたいとのこと。
- ・種苗の供給については県内で種苗生産している機関の現状、新規魚種への取り組みを紹介した。
- ・国外産、他県産輸入種苗の問題性その防疫対策方針を示し、カンパチについては当面の対策を

検討中とのこと。

- ・魚類養殖振興策として適正養殖基準の策定、情報ネットワーク、現場での魚病専門家養成等をあげ、「子や孫までが、養殖で生きていける海をノ」と提案した。

3. 魚病発生及び予防について

(水産試験場 杉山昭博研究員)

- ・平成5年度の魚類の魚病は23件の持ち込みがあった。
- ・マダイ当年魚の魚病が全県的に発生し、一斉調査及び病原性試験を行ったが、原因を特定できなかった。その際奇形率が高いのが確認された。
- ・カンパチのクドア症、ハダムシ対策について説明された。

4. 中城湾におけるクドア調査

(（社）日本栽培漁業協会 石橋矩久場長)

- ・平成3年度から5年度までの調査の結果、クドア症は中城湾では確認されていないと報告された。

5. 全体討議

(1) 販売について

- ・3、4年魚を数万尾抱えている。kg単価1,000円では厳しい。1,500円は欲しい。
→商品の周年供給が可能であれば、県外からの移入魚と区別したい。そのためには餌止め等の努力も必要となってくる。
- ・マダイを活魚、1,000円で販売している。魚のマーケティング調査をきちんとしたい。
- ・マダイは県内だけでは供給過剰となるので、県外、中国、韓国へも輸出してはどうか。

(2) 種苗について

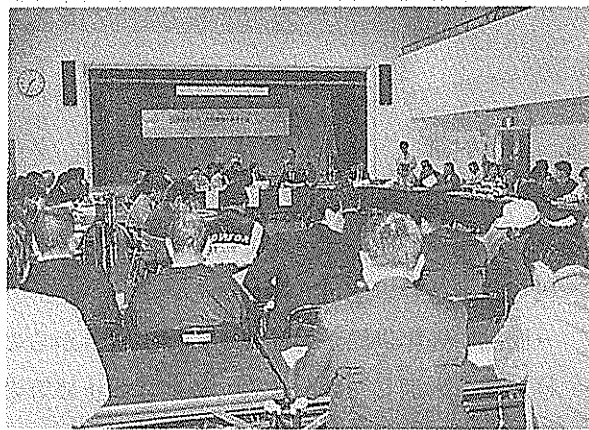
- ・カンパチの養殖をしたい。県で供給してもらい

たい。

- ・マダイ、タマン、チンシラーの種苗を導入しているが、病気、変形魚による減耗が激しい。種苗の質、量を安定させて欲しい。
- ・マダイ種苗の変形魚が多い。選別して漁協へ供給して欲しい。
→マダイを4～5cmまですると人手が必要となる。価格も高くなる。変形魚は努めて気をつけたい。
- ・現施設を拡大し、種苗供給体制を充実し、需要に对应してもらいたい。
→可能な限り強化していきたい。

(3) その他

- ・港湾等での養殖の可能性を検討してもらいたい。
- ・スジアラをもっと大量に放流して欲しい。



6. その他

沖縄県魚類養殖漁業連絡協議会の設置について

(沖縄県漁連 伊野波盛仁専務)

魚類養殖をとりまく環境は厳しいものがあり、さまざまな問題点を検討していくような組織が必要と思われる。主産地の漁協が発起人となり、取りあえず協議会を設置し取り組もうと提言された。

7. 所感

生産者、漁協、団体、市町村、県の関係者が計135人出席し、相変わらず関心は高いようだ。

今回は課題を絞り込み、時間に追われないように十分に論議する計画であった。その点は評価できた。しかし、生産者に活発に発言してもらいたいにも関わらず、場が大きすぎて生産者が意見を出しにくいという声が多く聞かれた。

今後この会議は「大会」的に位置づけし、継続実施中の地区毎の勉強会をブロックレベルの場に引き上げ、情報交換の場とするなどの検討を加えていきたい。